

取材レポート

～木・金管楽器 授業編～

学生広報委員 管楽器リペア科 2年生

羽石紗也花
藤井菜々美
平野美玖
渡辺愛咲



管楽器リペア科の木管授業では、主にクラリネットやフルート、サックスを教材に実習を行います。それらの楽器のタンポ交換やバランス調整、コルクやフェルトの交換などについて学びます。そして、金管授業では、トランペットやホルン、トロンボーンを教材に実習を行います。メンテナンスやはんだ付け、凹出しなどについて学びます。

1年次では基礎を学び、2年次では修理精度を高め就職後を見据えた実践的な実習を行っています。

木管楽器にはトーンホールという穴を塞ぐためにタンポが使われており、湿度や温度に影響を受けやすいため定期的に調整や交換が必要です。

サックス タンポ交換

サックスのタンポは、大きいものから小さいものまで幅広く、タンポの持っている柔軟性を活かしたタンポ調整が必要になります。ただ、湿度や温度の影響を受けやすいため、その時は合っていても、次に見たら変化してトーンホールとタンポの間に隙間ができたりと難しいことも多いですが、改めてタンポ交換・調整の重要性について多くを学べます。



フルート バランス調整

バランス調整とは、2つ以上のキィが同時に動く仕組みになっている箇所を調整することです。特にフルートは非常にデリケートな楽器であるため、微妙な調整が必要となります。細かな作業で微妙な調整を行うのですが、せっかく調整しても時間が経つと変化してしまったりすることがあります。調整後のことも考えながら、慎重に進めていきます。



工具を紹介します！

市販の工具ばかりを使用するわけではなく、自分たちで製作・加工することもあり、各楽器に合わせた工具を使い分けながら日々の実習に臨んでいます！



サクスのタンポ交換に使うさまざまな工具です。蛍光管のついている箱型のはリークライトといって、学生たちの手作りです。リークライトを管体に入れて、タンポとトーンホールの隙間を確認します。



金管楽器を修理するための工具です。凹み直しであったり、はんだ付けなどに使っていきます。工具類は、就職後も長く使っていくものです。工具類の取り扱いやメンテナンスなどもじっくりと学ぶため、段々と手に馴染んでいきますし、モノを大切にしている意識が芽生えてきます。



金管楽器 検品・見積り

2年生の木・金管楽器の授業に「検品・見積り」というものがあります。「検品・見積り」は、楽器のどこが悪いのか、何を修理すれば吹けるようになるのかを調べ、修理するにあたっていくらかかるかを計算するものです。その後は、納期を決めて臨場感を持って修理を行います。今回は、金管楽器の「検品・見積り」をご紹介します。この取り組みは、就職後の現場を見据えた実習ともいえ、お客様からお預かりした楽器をいかに効率的に、効果的に修理していくかという力が身につけていきます。



学校法人 中部学園（職業実践専門課程認定校）
中部楽器技術専門学校
CHUBU TECHNICAL ACADEMY OF MUSICAL INSTRUMENTS
〒466-0027 名古屋市昭和区阿由知通3-13-6



0120-856-854

TEL: 052-741-6788 学校案内無料送付中

URL: www.chubugakki.ac.jp

